

# 国語 (現代文)

## 早稲田大学 文学部 1/4

### <総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

例年どおり評論二題の構成。昨年度と同様、現代社会が直面している問題について論じた文章である。設問は、傍線部説明問題と空欄補充問題が中心。設問数は昨年度と同じく17問。(一)が長文である点、選択肢がすべて四択である点、そして漢字書き取りと抜き出し以外の記述問題が出題されていない点なども、昨年度と同じである。

### <本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	大屋雄裕「AIにおける可謬性と可傷性」(宇佐美誠 編『AIで変わる法と社会 近未来を深く考えるために』岩波書店2020年9月刊)の一節。途中、省略がある。	西條玲奈「ジェンダー」(蘆田裕史・藤嶋陽子・宮脇千絵 編『ファッションスタディーズ 私と社会と衣服の関係』フィルムアート社2022年3月刊)の一節。途中、省略がある。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章は、入試でしばしば出題される。	この著者の文章が入試に出題されるのは稀である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約5100字。昨年より約500字増。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3500字。昨年より約350字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	人間論	問一	マーク	やや易	傍線部理由説明。第4段落までの内容を踏まえる。 傍線部内容説明。設問にある説明文の空欄に入る言葉を本文中から「十五字」ちょうどで抜き出す。 傍線部内容説明。AIやロボットに特有な「規範」への反応の仕方を答える。 空欄補充。「動物」についても「AIやロボット」についても該当する語を答える。ハが紛らわしい。 傍線部内容説明。「このような」の指示内容を確認する。 傍線部内容説明。傍線部そのものの表現と、傍線部以降の内容に即したものを選ぶ。 趣旨判定。AIやロボットと人間との違いについて述べた筆者の見解を踏まえ、消去法で答えを選ぶ。 漢字の書き取り問題。B・Cは同音異義語に注意。
		問二	記述	標準	
		問三	マーク	標準	
		問四	マーク	やや難	
		問五	マーク	標準	
		問六	マーク	やや易	
		問七	マーク	やや易	
		問八	記述	標準	
(二)	社会論	問九	マーク	やや易	傍線部内容説明。傍線部に至るまでの内容を踏まえる。 具体例の判定。本文の内容に「合致していない」事例を述べたものを選ぶ。ハがやや迷うが、第3段落の内容に即していると考えられる。 傍線部理由説明。傍線部直後の「虚飾」を説明しているものを選ぶ。 傍線部内容説明。「こうした周縁化」が2行前の「周縁化」を指していることに注目する。 傍線部内容説明。直前の内容に即したものを選ぶ。 空欄補充。「記号」「規範」という語の意味を考える。 傍線部内容説明。傍線部を含む文脈を確認し、「衣服を選ぶ」という行為がどんな「影響」をもたらすかを考える。 傍線部理由説明。二の「ニーズを敏感に読み取り」と「ジェンダー規範そのものを実質的に決定」が「適切でない」と考えられる。ハが紛らわしい。 ※大学より「選択肢に正解として扱うことができるものが複数ありましたので、そのいずれを選択した場合も得点を与えることといたします。」との発表がありました。 趣旨判定。本文全体からうかがえる筆者の主張を踏まえ、消去法で答えを選ぶ。
		問十	マーク	やや難	
		問十一	マーク	標準	
		問十二	マーク	やや易	
		問十三	マーク	標準	
		問十四	マーク	標準	
		問十五	マーク	標準	
		問十六	マーク	やや難	
		問十七	マーク	やや易	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様な評論や随筆に取り組んで問題演習をしておくといよい。本文の全体の構造、および空欄や傍線部の前後の文脈を正確に把握するとともに、それらを通して理解した事柄を踏まえて選択肢を吟味する練習を怠らないようにしましょう。

# 国語 (古文)

早稲田大学 文学部 3/4

## <総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

古文の学力を広範囲にわたって問うオーソドックスな出題であった。

## <本文分析>

大問番号	(三)		
出典 (作者)	『和泉式部日記』		
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所も他大学で出題されたことがある。 (本文の一部が、2022年度夏期講習「高3・卒 古文総合」補充問題に掲載)		
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	約1050字。昨年より約700字減。	
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)		

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(三)	日記	問十八				
		A	マーク	やや易	文法 (助動詞の意味)。	
		B	マーク	易	文法 (助動詞の意味)。	
		C	マーク	易	文法 (助動詞の意味)。	
		問十九				
		1	マーク	標準	文の意味 (傍線部が宮の手紙内にあることに注意)。	
		2	マーク	標準	文の意味。	
		問二十	マーク	やや易	敬意の対象 (対象となる人物が他と異なるものを選ぶ)。	
		問二十一	マーク	標準	和歌の説明 (掛詞の説明として適切でないものを選ぶ)。	
		問二十二	マーク	やや難	語の空欄補充 (和歌中の空欄にふさわしい語を選ぶ)。	
		問二十三	マーク	標準	語句の内容説明 (和歌中の「あさましや」に関する説明として適切なものを選ぶ)。	
		問二十四	マーク	標準	内容合致。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

古文の知識を広く身につけ、文章を細部まで丁寧に読み進めていく力を養成しておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

# 国語 (漢文)

早稲田大学 文学部 4/4

## <総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

昨年度は評論が出題されたが、今年度は詩話であり日本漢文による紀行文であった。設問は枝問を含めて6題で昨年度より2題多く、そのうち2題が記述問題であった。例年、設問に関わる箇所は白文もしくは返り点のみ施されていることが多いが、今年度は白文の箇所はなかった。書き下し文から原文を復元させる新傾向の問題が出題された一方で、書き下し文に関する問題は今年度もなかった。今年度も昨年度同様、本文全体の趣旨を問う問題は出題されなかった。

## <本文分析>

大問番号	(四)
出典 (作者)	夏目漱石『木屑録』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加) 197字。昨年より20字減。
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(四)	詩話	問二十五	記述	やや易	抜き出しの問題。「興津」と「保田」が対比されていることに注意する。	
		問二十六	マーク	易	空欄補充の問題。押韻に注意する。	
		問二十七	マーク	やや易	意味の問題。「皆を決す」という表現に注意する。	
		問二十八				
		A	記述	標準	原文を復元させる問題。「不堪」(～にたへず)と、「神往」が主述関係になることに注意する。	
		B	マーク	やや易	意味の問題。「神」が「精神」の意味であることに注意する。	
		問二十九	マーク	やや易	解釈の問題。「而後」に注意し、全体の文脈を捉える。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

漢文の基礎知識を徹底的に身につけ、緻密な読解力を養成する必要があるのはいうまでもないが、設問に関わる部分の訓点が省かれる傾向があるので、白文対策も必要である。主語・述語の関係など漢文の基本構造を読み取り、白文に返り点・送り仮名を付ける練習をしておきたい。また、漢詩に対しても十分準備をしておくこと。